

インタビュー

# 人々が集まるまちづくりのために ～震災から5年、今思うこと

しおたけんいち  
**塩田賢一さん**

40代 男性 気仙沼市在住

東京都で生まれるが、祖父が亡くなったことをきっかけに両親の故郷である気仙沼に転居。高校卒業後、東京で修行し、20代半ばで気仙沼市内にうどん屋を開店し17年間営業。地元で開店したいという思いから、鹿折地区でうどん屋をリニューアルオープンした5ヶ月後に被災する。

2016年4月現在は、鹿折復幸マートにて「釜揚げうどん団平」を営業中。

## ■ 「鹿折復幸マルシェ」から「鹿折復幸マート」へ

—— 前回お話を伺ったのは2014年9月でしたね。震災の日の様子や復興に対する想いについて伺いました。それから2年半が経過しましたが、何か変わった点はありますか。

**塩田** 震災以降、基本的な考えは変わっていません。必要がある限りは、いつできるかわからないけれど、何年何十年かかってもやっていきたいというのが今もあります。

2015年9月に、以前営業していた「鹿折復幸マルシェ」（以下マルシェ）から「鹿折復幸マート」（以下マート）に移転オープンしています。

—— マートに移転して何か変わりましたか。

**塩田** マルシェでは代表をやっていたけれども、実はマートに移った時に代表を辞めました。マルシェでやっていたことに対して、いろいろと言われていて……。言われてもしょうがないと思ってやっていたけれども。また、マルシェの宣伝活動やPRのために雇用した事務局費用がけっこうな金額になっていたんだけれども、それは代表者が勝手にやっているのだから代表者の責任でしょう、とポンと振られてしまったんです。自分でやったことなので、みなさんに負担してもらうつもりはなかったけれども。少しでも協力してもらって、みんなで頑張っていくような意識があればよかったのだけれども、それが見えなかつたので。

マートに移るとき、俺は代表をやらない、イベントも何も打たないと言ったんです。その結果、イベント、ホームページ、フェイスブックもやらないので、マートにお客さんは来ないです。それで売り上げが下がりました。マルシェのプレオープンの頃からいた魚屋さんが、家賃も電気料金も払えないからと言って3月末に辞めてしまった。1月前に辞めている所もあ

るし、他に移転して再オープンしている所もあります。ただ、私は自分でPR活動をしているので、うちの店にはマルシェにいた頃よりお客様が来ているんです。

—— PR活動をしないと、やはり人を集めるのは難しいですよね。

塩田 マートのオープンイベントをやった時は、地元の人が50人くらいしか集まりませんでした。盆踊りを企画してやっても、やっぱり50人くらいしか集まらなくて、その内の半分は関係者でした。そのようなイベントをやっても集客にはならなかったんですよ。周知の仕方も、A4サイズのチラシを各店舗に貼るだけですよ。それでは到底人が集まらない。

それで昨年の秋頃1周年になったときに、私がイベントを打ったんです。マートは駐車場が広くて車を集めたりするにはもってこいの場所なので、バギング（パーツや塗装をカスタマイズしたワゴン車）という車を集めました。全国から300台くらい集めて、駐車場を埋め尽くしました。あとは歌手を呼んだり、マジックをしてもらったり、出店を出したりしました。結果、3000人くらい集まりました。

—— すごい違いですね。費用はどうされたのですか。

塩田 ポスターも作ったので費用がかかりましたが、市の補助金などを使って、残りは私が出しました。以前マルシェのイベントでトラックを集めたことがあったんですけど、その時は駐車場に30台くらいしか入らなかった。でも今回はワンボックスカーなので、300台車両が入れば最低300人は来る。家族も一緒に来たりすると、それだけで5,600人くらい集まる。それに地元の人や観光客が来るとなったら一気に膨れ上がるんで、そのために今回はそういった演出をしました。

## ■ 「復幸マート」のこれから

—— マートは今年の8月末で撤去命令が出ているとのことです、その後はどちらかに移転されるのですか。

塩田 私は低地ゾーンが大事だと思って、マートの目の前の土地を確保しています。でも、今年の8月末で店舗がなくなっていて、目の前の土地がまだ返ってこないんですよ。返ってくるのが来年の3月以降と言われているので。そうなるとタイムラグが出てしまって……。「来年の3月以降」の「以降」という言葉が引っかかります。具体的な時期がしっかりと定まっていないのが怖い。仮に来年の3月に土地が返ってきたとしても、それから建物を建てるとなると、プラス3ヶ月かかるので。かさ上げ工事も遅れているようだし、今まで何度も先延ばしにされている状況があるので。だから、自分の所の計画もなかなか思うようにいかない現状にあります。

—— マートが撤去された後はどうされるお考えですか。

塩田 再建費用を貯める必要があるので、一旦廃業して他の仕事について、少しでも給料のいいところで仕事しなければならないかと思って……。地元でやっていても生活費がかかって、再建資金はなかなか貯められません。そうなると、やっぱり福島の原発とか、少しでも

給料の高い所に行くしかないのかなという思いがあります。

### ■震災から5年経った現在の状況

—— 震災から5年経ちましたが、復興の状況はいかがですか。

**塩田** たかだか5年ですが、その5年間の間に、生活しながら住宅や店舗の再建をするというのは無理な話です。住宅を建てる場合、20年30年というスパンで考えると思うし、店だって同じように10年20年というスパンで考える。元々店があったのだからそれを出そうと思っても、なかなかそこまでは簡単にはいかない。資金力のあるところはそれができるけれど。

店を1軒建てるのには、2000万円くらいかかります。震災以降の5年間で、そんな予算が貯まったかと言ったら、当然無理な話です。住宅や店舗が流されてしまうと、家族がいた場合、最初に再建するのはやっぱり住宅なんですね。私のところも住宅を再建したために、店舗再建が二の次になってしまった。ここにきて息子の大学進学が出てきたので、その費用も捻出しなきゃいけないとなったら、店どころじゃないです。息子は昨年の5月までは就職の予定でしたが、あちこちの大学からラグビーの推薦の話があって、大学に進学することになったんです。ラグビーを始めてまだ2年しか経っていないで、最初は冗談かと思ったのだけど。

うちはうどん屋をやっているので、営業しているからわかることがあります。私は22年間正月営業しているのだけれども、今年の年末年始は今までにないくらい静かでした。なぜかというと、一つ考えられるのは、今被災地に入っているのはほとんどが工事関係者なので、正月になるとみんな帰ってしまい、人がゴロっと抜ける。そうすると地元の人や帰省の人がお客様になるけれども、その人たちがいなくなりつつある。うちの店だけかと思って、仲間の店など聞いて歩くと、どこも暇だったようです。それで全体的に暇なのかなと思ったら、実は忙しい店もあった。料金設定の高いところ、ちょっと客単価の高いところが忙しかったようです。

—— お金のある人とそうでない人の差が広がりつつあるのでしょうか。

**塩田** お金を持っている人は持っている、ない人はなくなりつつある。

気仙沼の災害公営や住宅再建は去年からスタートしています。災害公営は完成率が25%くらいまでいっているかな。でも他の所は99%完成しています。仮設住宅は家賃がかからなかったけど、災害公営住宅はかかる。住宅ローンが始まる人もいる。今まで30万円で生活していた人が、家賃を払うからといって25万とか22、3万円くらいで生活を始めると、生活レベルを下げるというのが並ではない。最初はそれで過ごしていても、結果的にそれが響いてきます。

住宅を再建してわかったことがあります。3000万円で家を建てると言っても、かかる費用というのは3000万円だけじゃないんですよ。新しいところに引っ越すと、古い絨毯を持っていかずには新しい絨毯を買う。部屋に合ったテーブルやカーテンなど、次々にお金がかかってきて、一気に貯金がなくなっていく。本当に厳しい生活がこれから出てくる。今年そういう

たことが見えてきて、復興が進んでいくともっともっと負担が大きくなる。それは気仙沼に限らず、どこの地区にも言えることです。今後事業を再建するにしても、生活するにしても、きちんと見定めてやらないと、正直これからは自殺者とか犯罪が多くなってくると思います。

—— 特に鹿折地区はほとんどの方が被災されているので、難しい状況にありますよね。

**塩田** 今、気仙沼で事業を再建した方の9割は、住宅が被災していませんでした。住宅が被災して事業を再建しているのは本当にまれな状況です。家を建てる場合、国や市の補助が最大500万円くらい。でも500万円では家は建たない。鹿折地区はあの辺りではかなり厳しい状況ですね。それは商売しなければわからないし、住宅再建してみないとわからないことだつたりします。一般の人はほとんど気が付いていない状況です。

### ■人口の流出が止まらない

—— 以前お話を伺ったとき、地元に人々が戻って来ないのでないかという話がありましたが、現在の状況はいかがですか。

**塩田** 宮城県最大級の災害公営住宅が鹿折地区にできます。284世帯の建物で、今急ピッチで造っている状況です。今年の夏以降入居が可能な状況になって、人が戻ってくるという発表になっていました。しかし、1年くらい前に市から発表されたときに、キャンセルがあつて50世帯くらい空きになってしまったと聞きました。再募集をかけても一向に空きが埋まらない。それで、今月から再調査が始まっています、どうもまた抜けるという話があって……。

そんな状況で商売できるかといったら、人がいない中ではできないです。それもこれも結局、復興復旧の遅れが尾を引いているという状況です。つい2、3日前の三陸新報でも人口の流出が止まらないという情報がありました。一番の流出は鹿折地区と言われています。

—— 周りの環境が整っていないことが大きいのでしょうか。

**塩田** 結局、住むのであれば、近くにコンビニやスーパー、ガソリンスタンドがあったり、交通の便が良かつたり、ということを望むと思いますが、その計画が未だに白紙状態。まあ何ヶ所かは決まっているのだけれども、全部が揃っているわけではない。であれば、もう備わっているところに引っ越そうかという人が多いです。

—— 災害公営住宅に入る計画だった方は、元々鹿折地区に住んでいたのですか。

**塩田** 鹿折に住んでいた方が多いようです。でも結果的に1割戻るかどうか……。一番の不安要素はなかなか人口の流出が止まらないことです。建設関係の人が抜けた後、その穴埋めをどうするのか、一向に見えてこない。

—— 市は何か言っているのですか。

**塩田** 被災しなかった地区は人気があって、抽選になっている。周りの環境が整っているので。市は、抽選に漏れた人がこっちに来るから大丈夫だと言ったけれども。漏れた人々はそこの場所に住みたいから応募しているのであって、外れたら民間のアパートを借りるでしょう。現状としては民間のアパートもどんどん建っています。

若い人たちのグループが観光客を誘致しようという動きをしていますけれど、それはどこでもやっていることであって、気仙沼に特化していない。共徳丸みたいなものがあって、それにプラスおもてなし感覚で地元ができる体験ツアーなどがあれば、気仙沼に行こうかという話になるんだろうけども。交通の便が悪い、陸の孤島の気仙沼には厳しいと思うんですよ。—— 以前お話を伺ったとき、低地は水産加工特区なので、そこを目玉にしようという話がありましたよね。

**塩田** 直売場のようなものをやるつもりでいたけれども、工事の遅れや資金繰りなどの問題で、その計画が消えつつあるんですよね。当初は工事が出来上がり次第、使える土地を有効活用しようという話があった。本来であればもう出来上がっている頃だと思うんですけども。ちょっと難しいですね。

あとは、大手のコンビニさんの参入がやっぱり大きいですよね。もう増えて増えてしない。そこにお客さんを取られて一般事業者さんはかなり厳しい状況です。スーパーですら厳しい状況に陥っています。鹿折地区も元々4軒コンビニがあったのだけれども、震災後は5軒になりました。人がいないのにコンビニばかり増えてしまうと、そこでの事業再建ができるのかという不安要素になります。

## ■まちづくり協議会の今

—— 20代から40代くらいの方がまちづくり協議会に入ったということですが、若い方が入ってどう変わりましたか？

**塩田** 正直期待外れな部分があります。誰でも考え出せるようなことで市に要望書を作ったり、今までとあまり変わらない動きをしている。ちょっと厳しいのかな。

自分で言い出して、自分で何でも責任を持ってやれる意欲がある人がどれだけいるか、ということだと思うんですよ。鹿折地区でロープウェイを建てたらどうか、市の方に要望書を出しましょうという形でやっているのですが、この5年間いろいろなところを見ているので、出したところで駄目じゃないかなと思います。予算がないし、復興予算もそういったところには使えないで。

いろんなアイデアを出して、自分たちで動いていこう、という人たちが出てくれればうれしかったのですけれども、まだそこまでの人には出ていないかな。

—— 毎週火曜日に話し合いをされているということですが、どんなことが議題に挙がっていますか。

**塩田** 町に桜並木を作るというような意見があるけれども、やるのであればもっと前から動いていなければならない。今やるとなると、町の復興造成の計画を変えなきやいけないので難しいです。春なので桜並木というアイデアなのだろうけど、そこまでの大木になるのに何年かかるのかわかっているのかと。植えたからすぐ咲くわけじゃないんだから。もっと前から苗木を買って育てて、それを植えるという計画であればまだかわいいのだけれども、そ

といったところをしないで、夢物語を語っているのかなと。突っ込む要素はいっぱいあるのだけれども、あんまり言ってもかわいそうなので。まあいろいろ考えてくださいとは言っているのだけれどね。

### ■ボランティアの受け入れ態勢をつくる

—— 以前お話を伺ったときには、住んでいる家が解体されるというお話でしたが、現在はどちらにお住まいですか。

塩田 2014年の10月に唐桑地区に築30年の家を購入して、今はそこに住んでいます。以前住んでいた家が解体されることになったときに、家族5人でアパートの一室で生活できるだろうと思いました。けれども、やっぱり今までつながったボランティアさんや仲間が気軽に来られる場所が必要だと思って、ちょっと無理をして唐桑に800坪、7LDKの家を購入しました。車も20台くらい停められます。あとはアパートを建てて賃貸で貸したり、借りている所もあって、ボランティアハウスとしてうちの従業員が使っている所もあります。

—— 鶴見大学の学習支援「学びーば」も今年の春も気仙沼でお世話になりましたが、やはり宿泊先がないとできないので、とてもありがたいことです。

塩田 大島地区では大学関係の方、立教、中央、早稲田大学などが地元の行事をお手伝いしたり、学習支援などが今でも続いている。休みの日に、ボランティアでつながった人が遊びに来たりしています。外部の方が来るときに受け入れ態勢ができていないと、やりたいという気持ちがあってもできないので。そのために場所を用意したほうがよいなと思って、私の趣味でやっています。

今、唐桑の自宅に露天風呂を作ろうと思っています。地下水をくみ上げて薪で沸かしてお風呂に入れれば、電気が止まっても使える。

—— すごいですね。塩田さんは一体何者なのかと思ってしまいます。

塩田 頭の中は小学生と一緒になので、思ったことを行動に移すだけです。

### ■鹿折から花火を

—— 塩田さんは「ライトアップ日本」の活動もされているのですよね。

塩田 「ライトアップ日本」という花火を上げる団体の気仙沼担当をやっています。一昨年はマルシェが閉館する時期で、今までの歴史の中で鹿折から花火を上げたことがなかったので「ここから上げるぞ」と思って、地上から2500発上げたんです。

—— 花火はみんながうれしくなりますよね。みなさんの反応はどうでしたか。

塩田 本来であれば、花火を上げる場所まで行って見なければいけないんですけど、今回は自宅から見られたので、ご年配の人たちも喜んでくれて。でも、ある事業者さんに「こういったことは頭のいい人はやらないぞ。負担があったり、何か事故があったときなど、全部自分にかかるからやらないんだぞ」とポロっと言われちゃって……。みんなで楽しみたいとい

う思いで上げたのに、一部でそういったことを言われると、じゃあ鹿折では上げない方がいいのかなと思って、昨年は気仙沼市内で上げたんです。

—— 損得で考えるとそう思うのでしょうか。塩田さんは、町のために人のために、という気持ちだったのだと思います。

塩田 でも正直、花火は上げるものじゃなくて見るものだと思いましたよ。花火を上げるまでの段取りは、すごく大変ですからね。今年は8月11日に上げる予定です。南郷地区といって去年災害公園ができた所で。今のタイミングであれば、かさ上げ中だからあの地区からあげることは可能かな。町が再建すると二度と上げられない場所なので。あとは予算によって、音楽イベントを打つか打たないか。

### ■鹿折のこれから

—— 塩田さんのような方はなかなか出てこないと思います。アイデアがあつて行動力がある人をみんなで支える、というチーム体制ができればよいのでは。行動できる人が「みんながやらないから」と言ってやらなくなってしまうのが、一番もったいないと思います。

塩田 現状体制では、鹿折地区を離れてもいいかなというくらいの思いにもなっています。あとはもう好きにやってください。ここまで言って、ここまでやろうとしても、何とも動かないのであれば、自分が必要とされる所に行ってやった方がいいかな、という思いに変わってくるので。今実はある町長からもお誘いを受けています。

—— 人を集めたい所は被災地以外全国にありますからね。それでも今までこの地区で再建したいという思いでされてきたので、葛藤はありませんか。

塩田 再建が微妙な状況になっているし、再建しても継続が出来なければ、やつた意味がないので。若い人にもう少し頑張ってもらいたいけれども、なかなかうまくいかない。やる気のある人間であればこの5年間で何らかの行動をしていると思うけれど、それが見えない。そういうことができる人が、うちの地区にはほとんどいない状況です。

鹿折地区のかさ上げ工事は平成30年3月までには完成予定です。でもそんなに待っていませんよね。さすがに私も来年50歳ですから。

2016年4月9日

川崎市の喫茶店にて

聞き手・太田杏奈